

感想

8月3日、4日の2日間に数多くの貴重な体験をしました。

まず、1日目は笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共催夏季プログラム、企業・大学訪問、そして二高OB・OGとの懇談会がありました。午前中は夏季プログラムに参加し、笹川平和財団理事長田中伸男氏の講演を聞き、その後は講師の方々とのグループセッションをしました。理事長の田中氏は前国際エネルギー機関(IEA)の事務局長で、講演ではエネルギーに注目して日本、そして世界の現在の状況、予想される未来の状況、国際的な協力などを教えて下さいました。また、田中氏が世界各国の首相や大統領などの重要人物と対談された時のお話などの興味深いことも聞くことができました。グループセッションでは、才田芳照氏、田代純一氏、石川通敬氏、そして前川美湖氏のお話を聞きました。この4人の方々の経歴や海外で活動していた時の体験談などは、まだ世界を実際に自分の目で見たことのない私にとっては、とても興味深く、心が躍るものでした。才田氏は工務店の海外支店があるドイツやマレーシアで仕事をされ、田代氏は様々な支援プロジェクトに関われ、石川氏は世界を股にかけて経済分野で活動され、前川氏は様々な海洋政策・研究に携われるなど、それぞれ全く異なった分野で活躍されている4人の方々ですが、どの方もやはり国際的に仕事をするうえで大切なこととお話しになっていました。社交的に振る舞う、相手とコミュニケーションを取る、情報の扱いに気をつける、情報・時代の流れに敏感になる、相手の立場になって物事を考えるなどのアドバイスを頂きました。私はお話の後、積極的に質問しさらに理解を深めました。将来、国際的に働くことを考えている私にとってとても良い体験となりました。

その後、企業・大学訪問において東京大学医科学研究所の幹細胞治療研究センターにお邪魔させて頂きました。まず始めに、幹細胞分野の正木英樹教授から再生医療についてのお話を頂きました。iPS細胞やES細胞の仕組みなどの基礎的なことから様々な再生医療のメリットとデメリット、さらには現在取り組まれている3Dプリンターを使用した臓器などの製造、現在の再生医療に求められていることまで、様々なことを聞きました。私はお話を聞いているうちに、「再生医療はダウン症の人々にも可能なのか。」という疑問が浮かび、質問しました。教授によれば、ダウン症の人の細胞から余計な染色体を取り除いてiPS細胞を作り、そこから正常な組織や臓器を作って移植すればよいそうで、その時拒絶反応は起きないということだそうです。その後も質問しながらさらに興味・関心を持ちました。お話の後、センター内を教授の案内のもと見学させて頂きました。センター内はとても広く、実際にマウスの細胞を見たり、珍しい機械を見てその値段に驚いたり、普段は目にすることのない貴重なものをたくさん見ることができてとても楽しかったです。私はこの訪問を通して、自分の将来の夢をもっと広げることができればよいなあと思いました。

夕食後、東京にいらっしゃる二高OB・OGとの懇談会がありました。1回20分から25分で3人の先輩方とお話をしました。私はまだ1年生で、志望大学が明確ではなく勉強方法もよくわからないので、この機会にたくさん先輩方のお話を聞いてこれからの自分に役立てようと思いました。最初は東京大学の経済学部の先輩とお話をしました。先輩は高1の時は平均1.5時間から2時間勉強し、塾には行っていませんでした。私も今は先輩と同じような状態です。私は周りの友達の多くが塾に通っていることに焦りを感じていますが、先輩は「塾や部活は受験に関係ない。そして、勉強は自分でやる。」とおっしゃっていました。私は「自分でやる。」という言葉を受けて「他人に頼るよりも自分で勉強習慣ややる気を身につけ、自分に合った勉強方法を見つけることが大事なんだなあ。」と思いました。さらに、先輩は得意教科を作る、問題集を何回も解いて苦手を克服する、授業を再現できるようなノート作りを心掛けるなどの具体的な勉強のアドバイスを教えて下さいました。

私はこのアドバイスをもとに早速勉強を頑張ろうと思いました。次に、東京大学で法学部に文転した先輩とお話をしました。先輩はもともと理学部でしたが、「東京にいるうちに都会感を感じて、人と関わる仕事がしたいと思って弁護士を目指して法学部に入った。」とおっしゃっていました。私は「いきなり文転して、理系の勉強が無駄になったと思いませんか。」と質問したら、先輩は「そんなことはない。理系で勉強したことも役に立っているから。」とおっしゃいました。そして最後に「高校生は目の前のテストに全力で取り組み、なおかつ予習と苦手克服にも努めるように。」とおっしゃい、私はその通りにしようと思いました。最後は、日本酒でビジネスをしている先輩とお話をしました。先輩は私達に3つの大切なことを教えて下さいました。1つ目は実質と見かけを見極める、2つ目は自分が選んだことに信念を持ってやり抜く、そして3つ目は自分の舞台は自分で用意するということだそうです。私は「ビジネスをしていて楽しいと感じることは何ですか。」と質問すると、先輩は「ビジネスをしていると、自分のやっていることが形になったり、社会に働きかけたりするから、それが楽しい。」とおっしゃっていました。先輩は自分で起業をして経営しているという大変な仕事の中で、楽しみやロマン、そして目標や信念を持って活動しているんだなあと感じ、私も将来このように仕事をしたいなあと思いました。先輩方のお話を聞いて、私はとても勇気づけられました。

2日目は、1日東京大学オープンキャンパスを満喫しました。まず、私は医学部の模擬講義「専門医学とリハビリテーション」を受講しました。講義では、先天性無痛症という痛みを感じない病気や先天性四肢形成不全という手足に異常がある病気を例に、リハビリテーションの仕方や治療の将来性、問題点、義手や義足のメカニズムについてのお話を聞きました。本来なら大学生が受けるようなレベルの高い講義なのですが、とても興味深いもので私の将来の道の1つを開くことができました。講義の後、教授に他人よりも多く質問しました。これは多分、私はこの講義を通じてリハビリテーションに本気で興味を持つようになったからだと思います。私は将来小児科医になろうと思っているので、子供のリハビリテーションを専門に医学の道を進もうかなと思いました。その後、私は面白半分理学部の地球惑星物理学科と天文学科の展示を見に行きました。私は惑星や宇宙にも興味があり、惑星や衛星の種類、そしてその特徴をさらに詳しく知ることができました。私は宇宙雑学の本を何冊も読んだことがあったので知識には自信があったのですが、私の知らないことが展示にたくさん溢れていたのもとても驚きました。天文学は私の趣味で勉強しているので、もっとたくさんの知識を蓄えたいです。最後に医学博物館に行きました。博物館はそれほど大きくはありませんでしたが、貴重な資料や道具がたくさんあり、とてもわくわくするものでした。私はその博物館に1時間以上もいました。写真撮影も大丈夫だったので、写真をたくさん撮って良い思い出を残すことができ、とても嬉しかったです。

この研修を通して、私は素直に東大ってすごいなあと思いました。「私の学力では東大なんて無理。ましてや、医学部なんて合格する確率は0%に近い。」と思っていますが、それでも行きたいと思っています。そのために、これからも地道に自分の力でできるところまでやってみようと思います。そして、3年後に赤門をくぐりながら将来の道を歩んでいきたいです。